

会議の実施日時	令和6年10月31日 14:00~15:05
報告事項1 (医療機器の共同利用計画書)	
事務局より、呉共済病院(マンモグラフィ・CT)及び呉医療センター(CT)から共同利用計画書の提出があったこと、及びその内容について、資料1により報告。 《質問・意見等》 なし	
報告事項2 (県単位調整会議の概要報告)	
事務局より、令和6年8月29日に開催された県単位の第1回地域医療構想調整会議に提出された資料等について、資料2により報告。 《質問・意見等》 なし	
協議事項1 (推進区域の取組の進め方について)	
国において、地域医療構想の取組を更に推進するため、医療提供体制上の課題や重点的な支援の必要性があると考えられる構想区域を推進区域等と設定することとし、広島県では呉圏域が推進区域に設定された。 このため、事務局より推進区域に求められる取組の進め方等についての事務局案を資料3により説明。 《質問・意見等》 【会長】 この圏域に推進区域が設定されたのは、急性期が多い、総病床数が多いからということだが、地域医療を考えると、足りないものをいかに補うかが重要だ。 足りない機能を補うために、機能の転換を含めて検討するという形で進めたい。 【県地域医療構想アドバイザー】 国においては、「地域医療構想を少し見直しして欲しい、再検討して欲しい」と思っているようだ。 呉圏域は急性期病床が少し多いですね、もう一度検証してみてくださいという考えで良いと思っている。 【委員】 推進区域の取組は数量合わせではないというが、現行の二次医療圏(構想区域)のまま、将来的に人口やその他の要件を満たしていけるのか。 第8次保健医療計画の中間見直しで、二次医療圏を見直すと聞いているが、いかがか。 【県地域医療構想アドバイザー】 第8次保健医療計画の中間見直しでは、人口動態や病床数に加えて、二次医療圏の見直しも対象になり、次期地域医療構想の策定時でも検討対象になると思う。 厚生労働省の勉強会でも、「病床数の差が出ている圏域はもう一度検討してください」という話はあまり出てこなかった。	

むしろ、次期地域医療構想の策定・第8次保健医療計画の見直しの中で、将来の人口統計も含めて見直しという事になるのではないか。

【委員】

古いデータ（必要病床数）を用いて、現状の医療圏に無理に当てはめると、ひずみが出るのではないか。

病床数に差があると数字を持ち出されても困る。

【県庁担当課】

御指摘のとおり、地域医療構想の必要病床数は、平成28年の構想策定以降、見直されていない。全国的にも実態と合っていないという意見を多く聞いている。

その都度、国に確認しているが、この構想の目標年の2025年までは、このままだろう。

現行保健医療計画の中間見直しと次期地域医療構想の策定に着手する令和8年には、二次医療圏の見直しを含めた議論を行うとともに、必要病床数の算定が実態に沿ったものとなるよう、国に対しては適切なガイドラインを示してもらおうよう、動向を注視していく。

《協議結果》

上記質問・意見等の交換後、会長がWEB参加委員も含め、事務局案のとおり進めることについて確認を行ったところ、異議はなかった。